



心理社会的治療のための ケースフォーミュレーションシート



2021年3月

久留米大学医学部神経精神医学講座

本研究は、JSPS科研費20K14242、公益財団法人メンタルヘルズ岡本記念財団の助成を受けたものです。

主な参考文献

- 林直樹・下山晴彦(編)(2019). ケースフォーミュレーションと精神療法の展開. 精神療法増刊第6号. 金剛出版.
- 妙木浩之(2010). 初回面接入門—心理力動フォーミュレーション. 岩崎学術出版社.
- Nancy McWilliams (1999). *Psychanalytic Case Formulation*. The Guilford Press and Tuttle-Mori Agency, Inc. (成田義弘(監訳)(2006). ケースの見方・考え方—精神的分析的ケースフォーミュレーション. 創元社)

- このシートは、介入初期に情報を収集して問題や状況をアセスメントするとき、家族や支援者と理解を共有するとき、退院後の再発予防に取り組みるときなどに、援助が有益となる可能性を高めるために、精神医学・臨床心理学の観点から作成されたものです。
- 一人ひとりの問題を個別に捉え、援助計画を立てるための情報を整理し、個人の状態と症状に応じた仮説を生成し、効果的な援助を行うために用いられることを想定しています。
- 整理されるのはあくまで仮説であり、援助の過程はその妥当性を確認しながら進められ、その都度より適切な仮説に作り直される
ことが重要です。

氏名 (ID) 年齢： 性別： 作成日：

生活歴（西暦で整理）

ジェノグラム 

気質，病前性格，病態水準，発達特性，知能検査等

-
-
-

発症時のきっかけや，影響の大きい急性・持続性の外傷体験など（ストレス，トラウマ体験）

-
-
-

精神科治療歴，薬物療法の概要

身体的側面

自傷他害のリスク

現在の主訴（今取り組む課題，本人の問題の捉え方）

認知（思考の癖，信念，防衛）

-
-
-

感情（未消化なもの，感情がエスカレートしたときの反応）

-
-
-

行動（衝動行為，行動の回避，嗜癖）

-
-
-

身体反応（睡眠，パニックなど）

-
-
-

対人関係（反復されるパターン）

-
-
-

環境（周囲のサポートや社会資源）

-
-
-

趣味嗜好など健康的な側面

-
-

社会適応の程度や課題

-
-

見立て（問題の成り立ちに関する仮説）

今後の方針（統合的な治療計画，注意サインと対処など）

氏名

(ID

)

年齢：

性別：

作成日：

生活歴（西暦で整理）

ジェノグラム



気質，病前性格，病態水準，発達特性，知能検査等

-
-
-

発症時のきっかけや，影響の大きい急性・持続性の外傷体験など（ストレス，トラウマ体験）

-
-
-

精神科治療歴，薬物療法の概要

身体的側面

自傷他害のリスク

現在の主訴（今取り組む課題，本人の問題の捉え方）

関連する心理的要因（性格傾向，発達特性，趣味嗜好，考え方や行動のパターン，行動の減少や増加，ストレス対処，対人関係の特徴など）

-
-
-

関連する社会的要因（家族の状況，職場・学校の問題や適応の程度，サポート体制，居住，就労，経済的問題など）

-
-
-

見立てと今後の方針（統合的な治療計画，注意サインと対処など）